

令和4年度(2022年度)
事業報告書

学校法人和風会
多摩リハビリテーション学院専門学校

学 科	作業療法学科
入学定員充足	<p>来年度新生の定員獲得が40名に対して35名（充足率87.5%）にとどまりました。毎月の体験会と個別見学を実施し定員獲得に努めましたが、個別見学を含め来校してもらえた学生数が減り、入学受験に繋がらなかった。また地域の高校への特別授業の実施も例年通りの数は実施できましたが、より多くの高校で多くの学生にOTの魅力伝えるという点ではまだ考慮の余地があり、次年度に向け努力したいと思います。</p>
教育(カリキュラム・学生サポート等)	<p>ホームルーム等の時間を利用した1年生の教育サポートは計画通り実施出来ましたが、学年を超えてという点では不十分でした。2年生ではグループワークを多く取り入れ積極的に参加を促しましたが、グループごとの取組み態度には大きな差がありました。実技場面を録画しネットに上げて教員から指導を受けたり、調べた文献の発表なども実施したが、内容的にさらに工夫が必要と感じました。3年生は国試対策を早期から充実させ、教員担当制等で学習サポートを実施しました。特に留年生への指導が結果良好でした。</p> <p>外部講師を招いてのOSCE（客観的臨床能力試験）の実施、モチベーションの向上(退学させない)についての授業は充実してきました。楽しい学生生活という点で「OTクラブ」の再開を目指してきましたが、まだまだ再開とまらない現状があります。</p>
国家試験対策	<p>1年次には基礎医学分野の国試問題を解いてみる、2年次では基礎医学分野に加え、専門分野の問題に取り組むことを実施していますが、残念なことに年々全国レベル（大学レベル）との得点差が広がっていて、各自の取組に任せるでは追いつけない状況になっています。</p> <p>3年次の取組は新学期開始から開始し、教員担当制の指導、ESSの導入、Zoomを使用した学習などの導入に加え、PT学科教員が実施する国試対策に参加することも実施しました。しかし、卒業できなかった学生は1年間を通じて指導しても追いつけない程の差があり、これまでのやり方では解決できないと思われました。</p>
就職支援	<p>まだ作業療法士の就職状況が良好なこともあり、就職活動は開始が遅く前期から就職試験を受けたいと申し出る学生はいませんでした。実習先や関連施設を含め見学を促しました。コロナ禍ということもあり昨年同様にZoomによる就職説明会、履歴書の指導や面談練習を実施しました。3年の担任や就職委員だけでなく、他の教員も卒業生がいる施設等からの就職状況や情報提供なども行いました。</p>
校友会(同窓会)との連携	<p>コロナ禍で対面での研修開催が厳しい状況は変わりありませんでしたが、少数や個別の対応に切换え新卒者中心に活動を開始しました。</p>
その他	<p>コロナ禍により新1年生の父兄に対しての説明会はオンデマンドで開催し、入学後の流れ、国試の状況（合格率）、就職状況、実習等説明し、ご意見、質問等のメールや電話を頂きました。全学生対応の面談年間2回（最低限）は全学年で実施し、成績状況により学生の面談と併せて父兄への連絡を頻度に行いました。頻度に電話連絡を入れたことで、来校しての面談や説明不足での苦情が減りました。</p>

学 科	理学療法学科
入学定員充足	今年度入学定員に達しております。入学定員に向け体験会、個別見学などで対応も行いました。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	カリキュラムは3年課程です。1年次は専門基礎、2年次は専門科目、3年次には臨床実習と理学療法士になるための学習を総復習を実施しました。例年通り各学年担任制で各学年2名ずつ配置しております。実技科目は複数の教員が関わることや、COVID-19の影響により学外実習が中止となったケースでは、随時学内実習にて対応してまいります。サポート体制としては随時面談を実施しております。実習終了後には3学年合同での懇談会も実施し、先輩・後輩の交流も行いました。
国家試験対策	1年次より国家試験に関わる講義や小テスト、3年次を中心に国家試験対策を行ってまいります。基礎的な科目となる専門基礎分野演習、理学療法の専門科目となる専門分野演習、そして実地問題の対策としての総合分野演習を行い、国家試験合格率が全国平均を上回る結果となるようサポートできました。国家試験当日直前までの個別対応が功を奏したと思われ ます。 2022実績 (37/40 : 92.5% 全国87.4%)
就職支援	当学院において毎年春に就職ガイダンス、秋に就職説明会を実施しております。就職説明会では実習地を中心に各施設の方々にお集まり頂き、施設の情報を提供頂きました。また、希望者には専任教員が履歴書のチェックや面接練習を随時行いました。年度内就職率100%達成致しました。
校友会(同窓会)との連携	年2~3回外部講師に講演等を行います。外部講師は全国でも有名な先生にお越し頂き、お話を頂いております。昨年度は臨床に実践的な内容でした。
その他	入学直後の保護者説明会(5組6名)、在校生の保護者説明会(新2年生11組11名、新3年生12組14名)を実施しました。定期試験以外にも随時面談等にて学生やご家族と話し合いを持てる機会を引き続き設けます。学科教員には授業及び学生に対する指導力等の向上に向けた研修会参加も行いました。

学 科	言語聴覚学科
入学定員充足	<p>言語聴覚学科では、4学科共通で行っている活動（体験会、個別見学）に加え、新型COVID-19感染症による行動制限および社会人入学者も多いことから、相談時間の延長やオンライン相談など入学希望者の要望に合わせました。また本学の認知度向上を目的に、日々の学校生活や学科の行事、活動などの情報をオフィシャルSNSを利用し発信しました。加えて、言語聴覚士の認知度向上を目的として、学科教員が認知症予防講座や介護予防講座を行いました。さらに東京都職業訓練制度の認可を受けました。</p> <p>結果、訓練生4名を含む26名が入学しました。</p>
教育(カリキュラム・学生サポート等)	<p>基幹教員のみならず、病院・施設に所属する経験豊富な言語聴覚士と連携し、講義でも言語聴覚療法の臨床に近い学習内容を提供し、学生の知識と技術がより深まるよう指導しました。</p> <p>医療施設で行われる実習に関しては、1年次では3週間の評価実習、2年次では合計12週間の臨床実習を学外で実施しました。また、学生サポートとして、定期的な学生面談を取り入れ、学習上の不安や疑問に関して指導や助言を行い、新型COVID-19感染下でも学生が安心して学べる環境を整えました。</p> <p>結果、退学者は1年生1名、2年生1名で前年比-2名となった。</p>
国家試験対策	<p>言語聴覚学科の国家試験合格率は、毎年、全国合格率を上回る水準を保ち続けています。今年度も1年次から国家試験合格を目指した授業展開と個別指導を行いました。これらは国家試験対策のみならず、日頃の学習の理解度を確保することにもつながりました。また、2年次の4月には最新の国家試験問題を学生に解かせ学生の実力を分析し、教員が全員で個別指導や希望者に対するポイント講義を適宜行いました。</p> <p>結果、国家試験の合格率は85.7%（全国67.4%）でした。</p>
就職支援	<p>言語聴覚学科では、就職ガイダンスおよび就職説明会を行いました。就職ガイダンスでは、履歴書の書き方や就職面接試験のポイント指導や新型COVID-19感染症の影響で、増加傾向のオンライン面接の注意点などを指導しました。就職説明会では、医療施設・福祉施設の就職担当の方と学生が直接、面談できる場をオンライン形式で提供しました。また、専任教員のネットワークを活用し、学生が希望する求人情報を紹介しました。</p> <p>結果、就職希望者の内定率は100%でした。</p>
校友会(同窓会)との連携	<p>言語聴覚学科では、校友会と連携し臨床現場で役立つ実技研究会を1回実施しました。COVID-19世代の卒業生に関しては、実習形態の制限から不安を残すまま卒業していくことや、若年経験者の早期退職が増加傾向にあるため、6月の早期時期に本科独自でオンラインを利用した相談会を実施しました。引き続き、開催数を増やしたり在学生も参加できるよう勉強会や講習会を計画していきます。</p>
その他	<p>COVID-19の影響から精神的・経済的に不安がある学生が多くなりました。精神的な不安な学生には、個別で通常面談外で対応を定期的に行いました。経済的に不安な学生に対しては、公的な学生支援機構や地方公共団体の奨学金制度に加え、専門実践教育訓練給付金、当校独自の「サポーター病院・施設奨学金制度」を紹介した。サポーター制度への切り替えが1名、公的奨学金制度の利用が2名、計3名誘導し解消が行えた。引き続き、多種多様な学資サポート制度の担保が行えるように精進していく。</p>

学 科	介護福祉学科
<p style="text-align: center;">入学定員充足</p>	<p>令和4年度計画：他学科と共に体験会、個別見学、高校訪問を実施する。修学資金に不安を抱える学生を支援していただく介護福祉士サポーター法人を増やすことで学費の不安がなく通えることを周知する。留学生の受け入れを行うために、近隣日本語学校との連携も継続していく。令和7年度から受託可能となる長期高度人材育成訓練（東京都委託訓練）にも対応できるように準備をする。SNSでの発信を継続。入学者紹介制度の案内をする。</p> <p>令和4年度実績：他学科と共に体験会、個別見学、高校42校訪問を実施しました。通信制高校定時制高校にも幅広く周知を行い結果通信制高校から2名の学生が入学しております。学校独自の介護福祉士サポーター制度は令和5年3月現在15法人（都内14、埼玉1）に賛同していただいております。昨年度よりも5施設増えており在校生が1名契約をしております。近隣日本語学校との連携も継続し令和5年度は近隣日本語学校から留学生13名の入学者を獲得することができました。近隣日本語学校以外では新たにミャンマー国からの直接入国での入学者3名の確保をすることができました。長期高度人材育成訓練の準備のため先行して申請をした言語聴覚学科と連携して申請に必要となる要件や必要書類などを確認して準備を進めております。上記取組を実施しましたが結果定員40名に対して32名の入学者となり定員に未達となりました。令和5年度は広報担当と連携しながら高校の進路担当教員との連携を強化できるように4月の段階から実績のある高校へ定期的に訪問します。介護希望の学生が出た場合に当校を紹介していただけるような関係構築を図ります。</p>
<p style="text-align: center;">教育(カリキュラム・学生サポート等)</p>	<p>令和4年度計画：1年次に介護に必要な基礎的知識と技術を習得し、施設実習を通じて知識と技術の統合を行う。2年次には医学的でより専門的な介護の知識を学び、根拠を基にした理解を深める。他学科の教員が授業を担当する科目もあり連携教育も実施する。学生サポートとして入学時から学生一人ひとりの悩みに対して支援できるように個別面談を重視する。留学生に対しては日本語教師による日本語教育を実施し学年を超えた交流や地域と交流できるような取り組みを行う。</p> <p>令和4年度実績：1年次に介護に必要な基礎的知識と技術を習得し、施設実習を通じて知識と技術の統合を行うことが概ね達成できております。2年次には医学的でより専門的な介護の知識を学び、根拠を基にした理解を深めていきます。他学科の教員が授業を担当することで連携教育も実施しより深い理解を促すことができました。学生サポートとして入学時から学生一人ひとりの悩みに対して支援いたしました。結果、休学をした1名以外は教員のサポートを受けながら進級をすることができました。留学生に対しては日本語教師による日本語教育を実施し日本語能力検定2級に5名が合格することができました。今後は学年を超えた交流や地域と交流できるような取り組みを行うことを実施してきます。</p>
<p style="text-align: center;">国家試験対策</p>	<p>令和4年度計画：国家試験対策として、1年次には学習の基礎となる「基礎学習講座」を学び、2年次には国家試験対策として特化した科目「総合介護福祉論」を学びます。同時に模擬試験も実施し、苦手部分を克服できるよう学習方法を個別に検討していく。</p> <p>令和4年度実績：国家試験対策として、1年次には学習の基礎となる「基礎学習講座」を学びました。各科目に出てくる専門用語をあらかじめ知ることで授業の理解も早くなり国家試験対策にもつながっております。2年次には国家試験対策として特化した科目「総合介護福祉論」を学び模擬試験も実施し、苦手部分を克服できるようにしていきます。学習方法も学生に合わせて個別に検討していくようにしていきます。</p>

<p>就職支援</p>	<p>令和4年度計画：特別講座としてマナー講座を実施する。基礎的なビジネスマナーを習得し就職面接などに役立てる。2年次には履歴書の書き方などを指導する。介護福祉士サポーター制度を利用する学生に関しては入学時からサポーター先施設でアルバイトをすることで、就職先と早い段階でつながることが出来、卒業後も安心して就職することができるのでサポーター先施設と連携協力をします。</p> <p>令和4年度実績：特別講座としてマナー講座を行い、基礎的なビジネスマナーを習得させました。結果教務室への入室時のマナーなども改善がみられました。2年次には履歴書の書き方などを指導していきます。介護福祉士サポーター制度を利用する学生に関しては法人担当者と連携して体調確認や施設でのアルバイト状況などを情報共有して学生の支援につなげることができております。</p>
<p>校友会(同窓会)との連携</p>	<p>令和4年度計画：介護福祉学科開設後は今までつながりが薄くなっていた旧健康福祉学科の卒業生との連携を構築できるようにする。入学者の斡旋の依頼や実習、就職先としての連携を図るようにしていく。</p> <p>令和4年度実績：卒業生が自分の所属する施設職員を当校の実務者研修を紹介し受講生増加につながっています。今後は介護福祉学科卒業生との連携も強固にしていきます。</p>
<p>その他</p>	<p>多種多様な学生が集りました。個別面談を行い、学習状況だけでなく、生活状況も把握して指導をしております。学科教員全員が学生全員の状況を把握し、連携を取りながら問題解決をしております。留学生の保証人となっているアルバイト先施設とも連携し日常生活のサポートを実施しております。</p>